

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770101152		
法人名	社会福祉法人 ライフ・タイム・福島		
事業所名	ロング・ライフ フクチャンち		
所在地	福島市伏拝字清水内25		
自己評価作成日	平成26年4月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 福島県介護支援専門員協会		
所在地	郡山市亀田2丁目19-14 チャレンジビル2階		
訪問調査日	平成26年7月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

①防災訓練を10年以上毎月地域と連携して実施し、年2回は総合防災訓練を行っている。 ②東日本大震災時、避難者受入れをした事により、平成25年2月には福島市より福祉避難所の指定を受けている。 ③便秘解消の為、整腸作用のあるバナナヨーグルトやオリゴ糖入りココアを飲んで頂くことにより自然排便できている。 ④地域住民との芋煮会や味噌造り、総合防災訓練を行い交流を深めている。 ⑤高齢化、重度化してもオムツ使用者が一人もいない。小旅行や外食、施設内外の行事にほぼ全員が参加している。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者も職員も、生き生きとした表情で笑い声も絶えず明るい雰囲気が感じられた。 職員同士の連携も図られ、利用者への個別ケアが実践されていた。 居室は、さまざまな居室があり個性に問われた物品の配置が見られた。 施設全体が地域の一つになっており、さまざまな交流が図れていた。
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員全員で理念を作成し、事業所内に掲示するとともに毎朝ミーティング前に唱和し、理念の共有をして実践に繋げている。	職員が理念に取り入れたい文言を持ち寄り協議を行ったうえで理念の見直しを行っていた。職員から理念の展開についての話が聞けた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の運動会や行事に参加したり、事業所主催の芋煮会や総合防災訓練の際には地域の方々に参加していただき、地域との交流を積極的に図っている。また、地域のボランティアの方々も毎月来園され、積極的に交流を深めている。	芋煮会には100名を超える参加者が集まっている。非常時の連絡先にも地域住民が登録されている他、避難訓練時には消防団・消防署等の参加もある。また、日常的に挨拶を交わしたり、盆踊りの練習に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にて認知症サポーター養成講座や中学生の福祉体験を行い認知症の理解を深めている。東日本大震災に伴い地域の避難所の役割をし福祉避難所に指定されている。豪雪時には地域の方にトイレを開放した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の状況、行事報告、研修報告を行ったり、率直な意見を頂き、日々の介護業務運営・サービス向上に活かしている。またお祭り、行事に参加し交流を図っている。	運営推進会議で、参加者が積極的に意見を述べており、それを受けて行事や避難訓練のあり方の見直しを図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	支所、近くの交番、消防署分署に広報誌を配り、交流を深めている。また、総合防災訓練には地域包括支援センターの職員や、近隣の消防団員、近隣住民の方に参加して頂き交流を図っている。	芋煮会など行事の際に、支所から TENT を借りたり、公民館の館長が行事に参加して下さったり駐在所の警察官が立ち寄り利用者との交流も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを全職員で共有し、法人内研修や事業所内研修、外部の研修等を通し、高齢者虐待について職員一人一人が理解し、利用者の方に対し尊厳を持ち一人の人として重視し、自立支援に向けケアに取り組んでいる。	利用者が急に立ち上がる恐れがある時などに、言葉で制止をする代わりに、観察と職員間の連携で危険を未然に防ぐ工夫が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを全職員で共有し法人内外の研修に参加し、その内容を職員会議等で発表し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、現在は該当する入居者様はおられないが、今後必要とされる場合にそれらを活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には十分な説明を行っている。ご家族様に疑問点がある場合はいつでも言ってもらえるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の家族会を開催し要望を広く聞く場を設けている。また運営推進会議にも利用者や家族に出席をして頂き、その意見を運営に反映させている。	家族より指摘を受けた内容について、研修会を行ったり、職員間での協議するなどの対策や改善を取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一木曜日に職員会議を行い、職員の意見や提案を運営に反映させている。年間4回の面接を行い各職員の目標や意見、提案を聞く場を設け、それを運営に反映させている。	職員は、日ごろから管理者と率直な意見交換が出来る関係を構築しており、気づいたことは何でも伝えられる。その中で、利用者のADL低下に伴い入浴用具の提案を行い購入に結び付いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標チャレンジシートを活用し、各々が自己のスキルを高める事が出来る仕組みがある。親和会で交流を深めたり、健康診断や人間ドッグを行い職員の健康管理に努め、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量を把握し、できるだけ多くの内外の研修へ積極的に参加出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO法人福島県グループホーム協議会に加入し、研修にも積極的に参加し、他施設との交流を図っている。また、他県の研修やその他研修にも積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査や家族からの情報などをもとに、センター方式(C-1-2)を活用し、本人の不安な事などに対する意向をふまえたプランの作成に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と話し合い、困っている事に対して情報を共有し、話しやすい雰囲気作りに取り組み、意向を取り入れたケアプランの作成に取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかりと行い、本人や家族にとって今必要な支援は何かを把握し提案し検討している。センター方式(Eシート)も活用しニーズの把握や、今後の支援の検討も行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、入居者から生活の知恵を教えてもらい、生活を構築している。掃除や食事の支度、買い物を一緒に行い、また利用者の趣味活動を一緒に行い、共に支えあって暮らす関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会やホームの行事にご家族様も参加して頂き利用者様と楽しく時間を一緒に過ごすことで共に支えていく関係作りに努めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容師に来て頂いたり、退所された利用者様が訪ねてきたり、訪問することで、馴染みの関係が途切れないように支援に努める。	調査当日も、家族と行きつけの美容院に外出する方がいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや午後のおやつ時には、ご利用者様、職員、全員で顔が見えるよう配慮し、支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の退所後も野菜を届けてくれたり、ニュースの配布や年賀状もやり取りも継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にセンター方式C-1-2シートを利用し、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な方には家族情報をもったり、本人の行動や仕草から読み取り支援している。	言葉が発せられない利用者のしぐさ等から意向を読み取りケアにつなげている。また、丁寧な言葉がけにより意向を表出しやすくし、その人に合わせたケアを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、面会者との会話の中から生活歴、馴染みの暮らし方を把握し、センター方式のシートを活用し支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を常に観察し毎日のバイタルチェック・個別記録を行い、又24Hシートを活用しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式のシートを活用し、利用者本人の心身の状況を把握し、月1回カンファレンスにて職員全員での話し合いにて情報を共有し、家族、本人の意見をふまえたプランを作成している。	適切な時期に、スタッフ全員でプランを見直し新しいプランにつなげている。しかし、記録の場所在まちなため行われていることがつかみにくい。また、プラン変更の根拠が明確ではなかった。	個人の記録に、情報が集約されケアプランの実施状況・評価・変更の要否とその根拠が見やすくなるようにしていく。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、カードックスを活用した個別記録や管理表を記入することで、職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来のサービスのみでなく、新たに理学療法士や作業療法士が週一回来所し、一人一人に合った歩行訓練やリハビリを行ったり、指導のもとに、職員が毎日継続して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の長年の行事や地域の方々と交流を図りながら味噌作りを行い、秋にはその味噌を使用し、地域の方々とも煮会を開催し、楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員が同行する際には医師に身体状況などを伝え、受診結果の情報を共有し、家族対応でかかりつけ医を受診する時は通院前後の情報の共有に努めている。また看取りも行っていく予定である。	受診前に情報を整理し、主治医に伝える努力を行っている。家族対応時には、書面に聞き取ったことを記録として残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し、利用者様の健康上の気になることを相談し、また管理者が看護職の為アドバイスを頂いたり、医師との連絡調整にて受診を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ頻回に様子を見に行き、家族と共に主治医と話し合いの場を持ち、家族の声を聞きながら早期退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について、ご家族様の意向の確認を取り検討し、職員も看取りについて研修を行っている。また訪問看護ステーションとの連携をとっている。	年に一回程度、看取りに関するアンケートを実施しその都度、家族の意向や状況の変化を把握している。実際に看取りの例はないが、その都度家族と相談を行い対応して行く準備が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	緊急時対応のマニュアルは、いつでも目を通せるようにしている。定期的に救急法講習を受けたり、AEDを設置し、尚迅速且つ的確な行動が取れるように実践力を身につける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10年以上に亘り、毎月15日に定期的に防災訓練を行い、年に2回は総合防災訓練を地域の方、運営推進委員の方、消防団の協力のもと行い、地域との協力体制を築いている。実際に夜間想定訓練も行っている。	月一で火災だけでなく地震・水害、夜間を想定した訓練を実施している。福祉避難所の指定を受け10名分の余分に備蓄をしている。食品などは消費期限を確認し、間際の物は入れ替えホームで使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が法人内外の接遇マナー研修に参加し、職員間でも話し合いながら、声かけには、誇りやプライバシーを損ねないように言葉遣いに充分配慮している。	廻りに気づかれない促しを行い、トイレ誘導をしていた。本人の意向を受け止め無理強いをせず時間をおいて再度提案していた。全体的に言葉遣いに配慮が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の出来る事出来ないことを見極めたり、思いや希望を言いやすい雰囲気作りに取り組み、本人が自己決定できる場面を作っている。食事の献立作りの際には、利用者の意見を聞き取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調に配慮しながらその日の本人の気持ちを尊重して、その人のペースを大切に希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪を希望される時は、馴染みの理容師さんに来て頂き支援している。また行事や外出の時は、おしゃれな服装やお化粧を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や、盛り付け、配膳、下膳等、利用者が出来る事は行っている。食卓に花を飾ったり、季節の食材や地元の食材を積極的に料理に取り入れ、季節感を味わいながら食事を楽しんで頂ける様にしている。	職員の利用者とともに楽しく会話をしながら食事し、同時に介助が必要な方へも配慮が出来ていた。食べきれない利用者から、職員へ勧める光景も見られた。笑い声が絶えない食事の時間であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量をチェックし、個別に記録している。水分を取って頂くために、好きな飲み物をこまめに提供している。また、食事は2ヶ月に1回管理栄養士による栄養指導を受け、メニュー作成に反映している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人ひとりに合わせた口腔ケアに取り組んでいる。また定期的に歯科医師の検診により、1人ひとりの口腔状態に沿ったケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の仕草や行動を観察し、全員トイレでの排泄・排便が出来るよう支援している。排泄チェック表を使用することで、個々の排泄パターンを把握し、パット使用量を減らしている。	本人の訴えやしぐさを見逃すことなく、介助を行うことでトイレで排泄が出来る。そのため、下着にパットで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、バナナ入りカスピ海ヨーグルトを提供し、更に便秘気味の利用者様には、オリゴ糖(30cc)入りココアを飲んで頂き、また運動も行い自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴剤の種類を変えたり、時には香り風呂(ゆず、しょうぶなど)を実施し、季節感を味わってもらっている。また本人の希望やタイミングに合わせて、気の合う方と一緒に入浴を楽しんで頂いている。	入居前には、入浴を嫌がっていた方へも、本人のペースに合わせて声がけ誘導することで、スムーズに入っていたいただいた例や、その方の意向に合わせて時間を変えて対応し入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干したり定期的にリネン交換を行い、一人一人の生活リズムに合わせ安眠できるよう支援している。また、夜間眠れない方には、はちみつ入りホットミルクなどを飲んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルに綴じ、個々の情報や副作用のリスク管理一覧表を作成し、全職員が正しく服薬支援が出来るようにしている。服薬が変わった時にも情報を共有している。また服薬が終わるのを必ず確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の能力や力に応じた役割を持ってもらっている。買い物や調理、掃除、製作活動を行い、忘年会の家族・利用者様・職員の仮装を楽しみ、個々に合わせて披露する機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や利用者の状態に応じて、ドライブや買い物など、出来るだけ外に出る機会を多くし、小旅行や外食など家族と共に協力しながら楽しく出かけられるように支援している。	毎朝、裏の神社に参拝に行く方や、畑に収穫に行ったり、買い物に行くなどの機会を捉えて外出している。花見などの際は、全利用者で出かける機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と話し合いながら、外出する時には小遣いを本人に渡し、買い物出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙教室で作った絵手紙をご家族や知人に出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間については、温度・湿度には気を配り常に整理・整頓・清潔に心がけ、季節に合わせた掲示物の貼り替えなどを行い、好きな場所に座れるような配置をし、居心地よく過ごせるように工夫している。	天窓を利用し自然光を取り入れることで共有空間にぬくもりが感じられた。利用者一人一人の写真が多数掲示されており、当月の物も見られた。写真の他に利用者が作成した絵手紙や似顔絵の掲示もあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様の性格を考慮しそれぞれに合わせた席順を設定したり、行事などにも気の合ったご利用者様同士で、安心して楽しんで頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や写真などを持ってきて頂き、その人らしく過ごせるようになっている。	さまざまな間取りのタイプの居室があり、それぞれ家具を持ち込んだり配置を行うことで個性が感じられた。年二回、その人らしい〇〇賞をスタッフが考え、その賞状を居室に掲示してあるのが印象的だった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置してあり、それを伝って安全に歩行できる。また、食器洗い時などには、温度が高温にならないように設定している。		